

おおよま福祉作業所 東京都障害者スポーツ大会

5月27日(土)、おおよま福祉作業所は第18回東京都障害者スポーツ大会に出場しました。参加種目により会場が分かれていて、フライングディスクと立ち幅跳びは駒沢オリンピック公園総合運動場・陸上競技場で。ポウリングは田町の東京ポルトポウルで行われました。



1か月前から作業所や近くの公園で練習を積んできた利用者たち。その努力が報われ金メダル2個、銀メダル2個、銅メダル4個を獲得。4位以下の人たちにも記念のメダルが授与され、皆やりきった感じいっぱい競技を終えることができました。

そして、陸上チームはお楽しみのマックタイムへ。帰り道、大好きなマクドナルドで今日の健闘をたたえあい、楽しい時間を過ごしました。一方ポウリングチームには駒沢から駆けつけた所長からお菓子の差し入れが。ちょっとしたご褒美に、疲れも吹き飛びました。

まえの福祉作業所 自治会活動

まえの福祉作業所では、利用者による自治会があり「一期一会」の名称で活動しています。年に一度外出行事があり、今年のみんなで話し合い行きたい場所を決め、5月19日(金)、北区西ヶ原にある旧古河庭園



に行きました。この日の気温は30度近くまで上がりとても暑い日でしたが、庭園にはみごとなバラの花が咲いており、香りを楽しむ人や、写真を撮る人などにぎわいました。

庭園を楽しんだ後は、売店により名物のバラのアイスを食べました。バラのアイスは、バラの花びら入りで暑い日にとっても良い涼となりました。

おおよま福祉作業所 群馬合宿

おおよま福祉作業所の夏合宿は6月7日(水)～9日(金)、2泊3日で群馬県の草津温泉と磯部温泉で行われました。

今回のテーマは、「ゆとりをもって、いろいろ楽しむ」。時間に追われないスケジュールで充実した3日間を過ごしました。

初日は「草津よいとこ」、一度はおいで、あいど(こいしよ)の歌い出しで有名な草津節が流れるなか「湯もみ」を体験。ホテル内ではビリヤードやポウリング、卓球、アーケードゲームなどさまざまなアミューズメントを満喫しました。



2日目は群馬サファリパークで野生の動物たちの迫力ある姿に驚き、併設の遊園地では皆大声をあげてエ

キサイト。最終日は群馬フラワーパークに寄り、専用列車に乗って広い園内の季節の花や植物を観賞しました。帰りのバスはいつもより早めの15時半に作業所に到着。お母さんたちのお迎えもあり、皆笑顔で家路につきました。

まえの福祉作業所 旅行行事

まえの福祉作業所の旅行は6月8日(木)～9日(金)に行われました。前日に関東地方が入梅し、出発当日の朝はあいにくの雲行きでしたが、2日目はお天気にも恵まれ、両日共に楽しい旅行となりました。



初日は栃木県の小山市にある、森永製菓の小山工場へ。森永製菓の主力商品である「ミルクキャラメル」や「チョコボール」などの製造工程を見学しました。

ベルトコンベアに流れてくるキャラメルの塊に、一同目が釘付けになり、なかなかその場を動くことができませんでした。おみやげに50周年を迎えた「チョコボール」をいただき、お昼には、同じ小山市にある「いちごの里」へ立ち寄りランチバイキングを楽しみました。



この日の宿泊場所は、福島県にある母畑温泉「八幡屋」。到着後さっそく温泉に入り、旅の疲れを癒した後は恒例の宴会が始まり、豪華な食事とカラオケで賑わいました。

9日はいわき市に移動し、「いわきかまぼこ工房」でちくわの製造体験。それぞれ色んな形のちくわができて上がりました。手づくりちくわを食べた後は、アクアマリン福島に行きました。色とりどりの海の生き物を見学したり、オリジナルのグッズを買いました。

とくまる福祉作業所 (クツキーハウス) はすね福祉作業所 合同バスハイク

今年度のバスハイクは、30年度の事業再編へ向けた交流を深めるため、とくまる福祉作業所とはすね福祉作業所合同で、生活介護と就労継続支援B型、カテゴリー別に行うことになりました。そのため生介・就Bそれぞれに立ち上げられたプロジェクトチーム内で、行先やタイムスケジュール、グループ編成など、はすね・とくまる双方の職員が話し合い決めました。特に利用者の特性については時間をかけて情報交換しました。

以下、カテゴリー別に2所合同で行われたバスハイクの様子をご紹介します。

生活介護

5月26日(金)、はすね作業所ととくまる作業所合同バスハイクに行きました。日々の交流と違い一緒にバスに乗ったりご飯を食べたり、お話しができたり、楽しい一日でした。

水族館でイルカショーを観たり、アシカにもとても近い距離で会うこ



とことができました。ハンバーグ・ステーキ・オムライスから好きなメニューを選び、品川プリンスホテルの1階のカフェでいつもよりおしゃれな雰囲気です。



朝食後は豊洲に移動して水上バスに乗りました。近未来的な形に「ディズニランドみたい」という人もいれば固まってしまふ人も...。乗ってみると、トイレ付の白い船内はとても快適でした。窓からの風景を楽しみ、パシャパシャ揺れる水面を見入る人、ゆったりとした時間を過ごしました。



就労継続支援B型

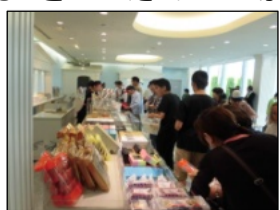
就労継続支援B型のバスハイクは6月30日(金)に行われました。雨空のなか8時に出発。閑道走るバスのフロントガラスには時折強く雨が当たっていました。車中は風船送りゲームなどで盛り上がり、幸運なことには群馬サファリパーク到着直前に雨は上がり、以後傘の出番はありませんでした。

今回は群馬サファリパークから沼

田の原田農園、そこからラスクで有名なガトーフェスタハラダというコーズです。サファリパークでは車窓の動物たちに皆大興奮。携帯のカメラを向ける人、よく見ようと立ち上がる人、窓ガラスにくっつくぐらい顔を近づける人、怖くなって引く人もいました。皆目が輝いていました。



次は原田農園での昼食とさくらんぼ狩りです。上州もち豚しゃぶしゃぶ、けんちゃんどら、キノコの天ぷら盛り合わせなど山の幸に舌鼓の後はハウスクッキング。さくらんぼ狩り。あちこちから「甘い」という声が上がっていました。ラストはガトーフェスタハラダの工場見学。パルテノン神殿を思わせる重厚な建物はとても工場には見えません。ここでしか味わえないグーテ・デ・ロワ・ブリュレを試食させていただき、お土産用にちょっとした贅沢な買い物をして帰路につきま



編集後記

作業所に板橋特別支援学校の3年生徒さんが実習に来ました。2年生から続けた実習でしたが、成長しているなど感じました。その間の保護者、先生方の働きかけを思うと、こちらも自然に力が入ります。実習日誌、また長々と書いてしまいました。(KY)

ふたつの輪



発行
2017年7月12日
No. 2902
社会福祉法人
にりん草
東京都板橋区
大山金井町21-1
03-5926-8640
<http://nirinsou.jp/>

社会福祉法人にりん草理事会 平成29年度は、平成30年度の事業再編に向け備える年に

事業計画、予算を理事会で協議

平成29年3月28日、社会福祉法人にりん草の理事会が開催され、平成29年度事業計画などの議題が協議されました。

『平成29年度事業計画』

平成29年度事業計画では、まず法人全体の重点施策、事業基盤の強化・課題について小西理事長より説明があった。

続いて各作業所の管理者より抱えている課題について話しがあった。特に利用者の高齢化問題が示された。本人の高齢化と共に、家族の高齢化によって生じる利用者の生活環境の変化への対応に苦慮している、とのことであった。

法人全体の事業計画、各所の事業計画を確認し、平成29年度事業計画は承認された。

『平成29年度予算』

平成29年度予算について、田崎理事より利用者の退所・欠席から生ずる収入減と平成30年度の事業再編に向けて職員増員と経費増などから厳しさが増すとの説明があり、協議の上、平成29年度予算は承認された。

『管理者の変更』

『とくまる福祉作業所の定員変更』

事業所の管理者変更および、とく

社会福祉法人にりん草 平成29年度事業計画 (抜粋)

1 基本理念

「優しくあれ、温かくあれ、そして ともにあれ、人間らしく」
知的障がいのある人達が誕生し、そして命を全うするまでの短いようで長い人生のすべてのシーンにわたって、私たちは上記の言葉にあるように、ともに喜び、ともに悩み少しでも幸せな道がさくれるよう努力いたします。

「福祉」という字は「福」も「祉」もともに幸せを意味するそうです。
その人それぞれの幸せを追求し、利用する人たちの声に注意深く耳を傾けながら、より充実した暮らしを作るお手伝いをしていきたいと思えます。

2 基本方針

上記の基本理念はにりん草で働く私たちの心がまえです。
日々の仕事に流されたり、疲れたり、目標を見失ったときにこの言葉に帰り、また、新たな気持ちで歩き始めます。
惜しみないプラスの言葉は人を勇気づけ人と人との心の距離をちぢめ、良い人間関係をきつき組織の活性化をはかります。

6 本年度の重点施策

(1) 組織運営の強化

- ・評議員会を法人運営の基本ルール・体制の決定と事後的な監督を行う議決機関
- ・理事会を業務執行に関する意思決定機関とする
- ・地域における公益的取組を実施する責務
- ・事業運営の透明化の向上
- ・経営組織のガバナンスの強化
- ・財務規律の強化
- ・虐待防止委員会の設置

(2) 事業基盤の強化・課題

- 当法人も、利用者が自立に向けた事業展開（日中事業・移動支援事業（余暇）・住まいの居場所（GH））までたどり着きましたが、当法人の利用者の家族の環境変化に伴い、退所する利用者も増え、事業の見直しは急務な課題となり次の計画を慎重に進める。
- ・平成29年4月1日 はすね福祉作業所 多機能事業所 定員20名とする。
就労継続B型（定員14名）
生活介護（定員6名）
 - ・平成29年4月1日 とくまる福祉作業所 多機能事業所 定員40名とする。
就労継続B型（本体定員20名）
クッキーハウスCosmos（分場定員10名）
生活介護（定員10名）

- ・平成30年4月1日 はすね福祉作業所 単独事業所 生活介護 定員20名とする。
- ・平成30年4月1日 とくまる福祉作業所 単独事業所 定員40名とする。

(3) 事業経営の透明化の推進

- ・事業経営状況のホームページ等による公表
- ・財務諸表等開示システムの運用

まる福祉作業所、はすね福祉作業所定員変更について吉川事務局長より説明があった。
緊急の保護者会を開き、小西理事長、吉川事務局長、田崎理事出席の上、保護者へ経過を説明し、保護者の理解を頂いた経過が話された。

他の理事から、田崎氏が作業所の管理をすることは大変難しいのではないかと、また、管理者職とサービスマン職の区分（役割分担）も必要ではないかと意見も出されたが、各理事から理解も得られ、両議案とも承認された。



法人の新体制について

社会福祉法の改正に伴って、平成29年度より法人の運営体制が大きく変わりました。法人の憲法である定款も変更され、評議員会や理事会の位置づけも大きく変わっています。詳細は次号でお伝えします。

こんな研修・講演会に参加しました 4月～6月

・都育成会事業所連絡会
・研修「地域共生社会の景と狙い」講師：厚生労働省社会保険庁参事官
・政策企画官野崎伸一氏
・都育成会事業所連絡会
・研修「平成29年度東京都施策について」講師：東京都福祉保健局障害者施策推進部就労支援担当課長 柳沼恵美氏
「障がいのある人を支えていく事業のこれから」講師：全国手をつなぐ育成会連合会「手をつなぐ」編集委員 又村あおい氏